

ローマの信徒への手紙 12章13節から15節

「聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。あなた方を迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

証 T・K

この聖句には、他者を受け入れることの大切さを示していると感じました。周りの環境が変わることはこれから何度もあると思います。その度に人との関わりも必要となってきます。ここの聖句で使われている旅人というのは、始めて会う人を表していると思いました。始めから心を閉ざすのではなく、心を開いて向き合うことが大切だとイエスは伝えたかったのだと思います。また、自分にとって得とならない人でも拒絶してはいけないこともこの聖句からわかります。むしろそういったひとにこそ優しく接するべきです。そして、互いに笑い、悲しむことができる人がいることがどれだけ素晴らしいことなのかもわかりました。

「誰に対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を図りなさい。あなた方は、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。悪にはならない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。」

ここの聖句は、自分自身の意志をなくしてはいけないことを言っていると思いました。周りにすぐ流されてしまえば、本当に大切なことを見失ってしまうと思います。良い行いをしようとして他者から避けられても、自分も同じようにしてはいけないことが大切です。他者を受け入れることが、自分の成長とつながり、平和をつくるために大切だと思います。